

科目名	警察学概論				
英語科目		ナンバリング	(https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/#n)を参照		
開講期	春学期	開講学部等	法学部	配当年次	2年次
教員名	浦中 千佳央			単位数	2単位

### 授業概要／Course outline

「警察とは何か？」という根本的な疑問を考えるべく、警察と社会の関係について政治学、歴史学、社会学的に解明していき、その方法は法律、政治学、歴史学、社会学などの多領域にわたり、警察活動そのものの歴史的意味合いと、今日的意味合いを考察する講義である。

「警察学」は主に、警察組織、人の活動に焦点を当て、警察を分析するものなで、講義もこれに沿って行われる。また、「女性警察官」、「職務質問」、「警察と人種問題」、「警察の武器使用」など、タイムリーな話題も扱う事により、警察と政治、社会の生きた関係を解説するものである。

純粋法学的な観点から警察を考察する科目ではないが、当講義は刑事法体系の中に組み込まれることも留意すること。

### 授業形態、授業方法等／Course form・type

#### 【授業形態】

対面授業

#### 【授業方法】

講義

- ・ICTを活用した授業（形態：遠隔教育（ビデオ・オン・デマンド等））
- オンデマンド授業は、moodleで行う。内容に関する質問はメールで受け付ける。

### 授業内容・授業計画／Course description・plan

#### 第1回－第8回「警察とは何か」

社会統制論、D・イーストンの政治システム論という観点から警察の役割・機能に着目し、警察とは何かを考察します。

- 1) 警察学の歴史、2) 警察の定義、3) 警察組織、4) 政治と警察、5) 社会と警察

#### 第9回－第10回「歴史の中の警察」

ギリシャ語の*politeia*が語源の警察（*police*）がどのように発展してきたかを俯瞰し、警察の変遷を考察する。1) 世界の警察、2) 日本の警察

#### 第11回－第14回「21世紀、今後の警察」

今、法化社会（*judiciarisation de la société*）、グローバリゼーション、ポストモダン社会の中、世界各国の警察が岐路に立っている様に、日本の警察も岐路に立たされている。こうした中で警察が直面していくであろう問題を取り扱う。また、IT技術の進展による、プロアクティブな警察活動も取扱いと考えている。

- 1) コミュニティ・ポリシング、2) 警察の軍事化・軍の警察化、3) 民間警備業

\*オンデマンド講義 1（30分）警察学の学び

\*オンデマンド講義 2（30分）レポートの好評

\*オンデマンド講義 3（30分）まとめ テスト対策

オンデマンド画像の配信時期は確定次第、Moodleにて掲載

### 事前・事後学修／Preparation and assignments

#### 第1回 オリエンテーション

「事前学習」警察について、自分のイメージや意見を考えてくる。

「事後学習」本講義の目的を理解し、今後の講義に関しての準備を行う。

#### 第2回－8回 「警察とは何か」

「事前学習」拙著「警察学の現状と未来－フランスの警察学から－」『社会安全・警察学』創刊号5-18頁を読む。

「事後学習」講義で説明した内容と上記論文とを対比させ、理解を深める。自身で警察関連記事、論文を読んで、「警察」の意味を考える。

#### 第9回-第10回 「歴史の中の警察」

「事前学習」世界史、日本史のおさらいをしておく。

「事後学習」警察が政治的、社会的変化にどのように関連してきたかを理解する。

第11回－第15回 「21世紀、今後の警察」

「事前学習」 官民協働、公的部門の民営化について調べること。  
「事後学習」 講義を基に、日本、世界で起きている現象を正確に理解すること。

★オンデマンド講義1、2、3

「事前学習」 それぞれのテーマに関して、自分でインターネット、文献などで調査すること。  
「事後学習」 それぞれのテーマに関して、オンデマンドを受けて、ノートに簡単に考えたことまとめる。

基本的な準備学習

事前学習：

常日頃からニュースを見たり、新聞・雑誌に目を通して、警察関係の話題に関心を持つこと。また講義前には講義ノートをMOODLE上にUPするので目を通すこと。そして講義ノートから重要事項を自分なりに抽出し、図書館などで関係文献を読むこと。

事後学習：

講義を受け、板書されたこと、自分で勉強した事をもう一度整理し、まとめ、自分だけの講義ノートを作成すること。疑問点、興味が湧いたことは図書館等で検索したり、関係教員に質問する事。

※事前学習は各授業2時間、事後学習も各授業2時間必要である。上記内容を確認して、しっかりと事前・事後学習を行うこと

授業の到達目標/Expected outcome

警察を対象にした研究は少なく、学問的な見地から「警察」を理解することができるようになる。  
人により評価が分かれる「警察」を学問し、私たちにとって、私たちの社会にとって「警察」とは何かを考えることができる。  
当講義で得たり、考えたりした知識を警察官志望の学生は、採用面接に役立てることができる。

身につく資質・能力/Competencies to be attained

- ・ 主体性
  - 専門知識・専門技能
    - 【法学部 法律学科】
      - ・ 法律学・政治学の基礎知識
    - 【法学部 法政策学科】
      - ・ 法律学・政治学・政策学の基礎知識

評価方法/Evaluation

第1回目講義にて詳しく説明しますが、レポート（30%）と定期テスト（70%）で評価します。

教材/Text and materials

- 参考図書：
- 瀬戸晴海『ナルコスの戦後史 ドラッグが繋ぐ金と暴力の世界地図』（講談社プラスα新書 2023年）
  - 古野まほろ『警察官僚 0.2%未満のキャリアの生態』（祥伝社 2022年）
  - 野地秩嘉『警察庁長官 知られざる警察トップの仕事と素顔』（朝日新書 2021年）
  - 島田貴仁『犯罪予防の社会心理学 被害リスクの分析とフィールド実験による介入』（ナカニシヤ出版 2021年）
  - 吉野まほろ『職務質問』（新潮新書 2021年）
  - 小林良樹『テロリズムとは何か―〈恐怖〉を読み解くリテラシー』（慶応大学出版会 2020年）
  - 吉野まほろ『警察官の出世と人事』（光文社新書 2020年）
  - 吉野まほろ『警察の階級』（幻冬舎新書 2020年）
  - 一田和樹、江添佳代子『犯罪「事前」捜査 知らせざる米国警察当局の技術』（角川新書 2017年）
  - H.L.Aハート 長谷部恭男訳『法の概念 第3版』（筑摩書房 2015年）
  - 高田昌幸『真実 新聞が警察に跪いた日』（角川文庫 2014年）
  - 佐藤成基『国家の社会学』（青弓社 2014年）
  - 浦中千佳央「警察学の未来、フランスの視座から」『警察政策 第16巻』（立花書房 2014年）77-99頁
  - 由井正臣 大日方純夫『日本近代思想体系 官僚制・警察』（岩波書店、1990年）
  - 広中俊雄『警察の法社会学』（創文社、2004年）
  - 村山真維『警邏警察の研究』（成文堂、1990年）
  - 菊池良生『警察の誕生』（集英社、2010年）

警察学論集、警察公論

#### 質問や相談の方法／Instructor contact

講義中に質問・相談を受け付けていますが、その他、メールの受付、オフィスアワーの活用。

#### その他／Others

本講義は、「警察」というものを政治学、法社会学、文化人類学などを使い、分析・研究するもので、非常に面白い科目だと思います。ニュースの見方も変わってきます。

例年、警察官、消防官などの公務員志望者も多く受講しています。しかし、運転免許など、日常生活で警察とのかかわりを持たざるを得ない私たちとしても、「警察」を知ることは重要だと思います。

警察を警察官志望ではない学生の受講も歓迎します。